

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北陸財務局長
【提出日】	平成23年11月11日
【四半期会計期間】	第70期第2四半期（自平成23年7月1日至平成23年9月30日）
【会社名】	株式会社 C K サンエツ （旧会社名 サンエツ金属株式会社）
【英訳名】	CK SAN-ETSU Co.,Ltd. （旧英訳名 SAN-ETSU METALS Co.,Ltd.） （注）平成23年6月20日開催の第69期定時株主総会の決議により、平成23年10月3日から会社の商号を上記のとおり、変更いたしました。
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 釣谷 宏行
【本店の所在の場所】	富山県高岡市守護町二丁目12番1号
【電話番号】	0766(28)0025(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役財務・企画部長 松井 大輔
【最寄りの連絡場所】	富山県砺波市太田1892番地
【電話番号】	0763(33)1212
【事務連絡者氏名】	取締役財務・企画部長 松井 大輔
【縦覧に供する場所】	株式会社名古屋証券取引所 （名古屋市中区栄三丁目8番20号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第2四半期連結 累計期間	第70期 第2四半期連結 累計期間	第69期
会計期間	自平成22年 4月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 4月1日 至平成23年 9月30日	自平成22年 4月1日 至平成23年 3月31日
売上高(百万円)	23,486	30,239	48,627
経常利益(百万円)	1,902	2,203	3,422
四半期(当期)純利益(百万円)	1,121	1,979	2,249
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,137	1,854	2,261
純資産額(百万円)	11,958	15,725	13,050
総資産額(百万円)	27,436	36,877	29,903
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	144.97	271.74	290.95
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	43.6	40.1	43.6
営業活動による キャッシュ・フロー(百万円)	943	282	927
投資活動による キャッシュ・フロー(百万円)	236	1,509	597
財務活動による キャッシュ・フロー(百万円)	1,382	1,832	1,551
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(百万円)	375	239	197

回次	第69期 第2四半期連結 会計期間	第70期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成22年 7月1日 至平成22年 9月30日	自平成23年 7月1日 至平成23年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	35.66	110.21

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 第69期第2四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当社グループ（当社及び連結子会社）は、当社（サンエツ金属株式会社）及び子会社4社により構成されております。当第2四半期連結累計期間においては、平成23年4月1日付で配管機器の製造販売及び溶融亜めっき加工事業を行っている、シーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、報告セグメントは従来の2事業から「配管・鍍金」を加え3事業となりました。また、従来の「黄銅棒・線」については、「伸銅」にセグメント名称を変更しました。なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期報告書提出日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災でサプライチェーンが分断されて部品の調達難から大幅な減産に陥っていた自動車などの組み立て産業が急速に立ち直る局面にありましたが、予想に反し住宅・建設分野での顕著な震災復興需要は見られず、他方急激な円高で電気・電子機器の一部において減産調整の動きが見られました。また、当社の主要原料である銅の価格は、期首から高値圏で推移していましたが、9月末にかけて急激に下落しました。

このような経営環境のもとで、当社グループ（当社及び連結子会社）は、他社との事業提携などにも機動的に対応できるようグループの再編に着手しました。まず、平成23年4月1日に、シーケー金属株式会社の議決権の過半数を取得して連結子会社化し、当社グループの「配管・鍍金事業」と位置付けました。また、平成23年6月20日開催の株主総会で、平成23年10月3日に持株会社制へ移行することを決議し、その準備を進めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、銅の相場が高めに推移し、また、シーケー金属株式会社を連結したため、売上高は、302億39百万円（前年同四半期比28.8%増加）となりましたが、原料相場差損（前年同四半期は差益）が発生したため、営業利益は、14億59百万円（同18.9%減少）となりました。経常利益は、中間期末に銅相場が急落したことで発生したデリバティブ評価益6億85百万円を営業外収益に計上したため22億3百万円（同15.8%増加）となりました。なお、四半期純利益は、シーケー金属株式会社の連結子会社化により、負ののれん発生益など特別利益6億54百万円を計上したため、19億79百万円（同76.4%増加）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、従来の「黄銅棒・線」については、「伸銅」にセグメント名称を変更しました。なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

伸銅

伸銅事業では、販売量は4万3,091トン（前年同四半期比8.9%増加）となり、売上高は銅などの原料価格が高値だったこともあり、261億6百万円（同19.7%増加）となりましたが、前年同四半期に生じた原料相場差益が発生しなかったため、セグメント損益は、14億49百万円（同16.9%減少）のセグメント利益となりました。

精密部品

精密部品事業では、5月に新工場が完成し、販売量が増加したため、売上高は、19億92百万円（前年同四半期比19.2%増加）となり、セグメント損益は、1億2百万円（同116.5%増加）のセグメント利益となりました。

配管・鍍金

配管・鍍金事業では、売上高は、21億40百万円となり、業界の市場環境が価格競争に陥ったため、セグメント損益は、86百万円のセグメント損失となりました。

(2)キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、税金等調整前四半期純利益を28億45百万円計上しましたが、売上債権やたな卸資産の増加、有形固定資産の取得による支出等の要因により、前連結会計年度末に比べ42百万円の増加にとどまり、当第2四半期連結会計期間末には2億39百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は2億82百万円（前年同期比6億61百万円収入の増加）となりました。これは主に売上債権の増加3億50百万円やたな卸資産の増加4億84百万円などがありましたが、税金等調整前四半期純利益28億45百万円、減価償却費4億85百万円等によるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は15億9百万円（同12億72百万円支出の増加）となりました。これは主に有形固定資産の取得6億83百万円及び連結範囲の変更を伴う子会社株式7億84百万円の取得等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は18億32百万円(同4億49百万円収入の増加)となりました。これは主に短期借入金の借り入れ12億20百万円及び第三者割当増資7億37百万円等によるものです。

(3) 事業及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、54百万円であります。

また、当第2四半期連結累計期間における研究開発活動の状況のセグメントごとの変更内容は、次のとおりであります。

伸銅

変更事項はありません。なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発費は27百万円であります。

精密部品

該当事項はありません。

配管・鍍金

平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、新たに配管・鍍金事業に関する研究開発活動が追加されました。なお、当第2四半期連結累計期間における研究開発費は27百万円であります。

(5) 従業員数

第1四半期連結会計期間において、シーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、配管・鍍金事業に213名の従業員数が加わりました。

なお、従業員数は就業人員数(当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。)であります。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	29,600,000
計	29,600,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (平成23年9月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年11月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,867,000	8,867,000	名古屋証券取引所市場 第二部	単元株式数 100株
計	8,867,000	8,867,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成23年7月1日～ 平成23年9月30日	-	8,867,000	-	2,756	-	2,671

(6)【大株主の状況】

平成23年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
シーケー金属株式会社	富山県高岡市守護町二丁目12番1号	1,650	18.60
サンエツ金属取引先持株会	富山県高岡市吉久一丁目4番1号	800	9.02
住友金属鉱山株式会社	東京都港区新橋五丁目11番3号	611	6.89
サンエツ金属株式会社	富山県高岡市吉久一丁目4番1号	528	5.96
サンエツ金属従業員持株会	富山県高岡市吉久一丁目4番1号	419	4.72
株式会社北陸銀行	富山県富山市堤町通り一丁目2番26号	370	4.17
株式会社北國銀行	石川県金沢市下堤町1番地	330	3.72
釣谷 圭介	富山県高岡市	251	2.83
釣谷 宏行	富山県高岡市	224	2.52
伊勢 晴之	富山県高岡市	189	2.13
計	-	5,374	60.60

- (注) 1. シーケー金属株式会社が所有している株式については、会社法施行規則第67条第1項の規定により議決権の行使が制限されています。
2. サンエツ金属株式会社が所有している株式(自己株式)については、議決権を有していません。
3. サンエツ金属株式会社は、平成23年10月3日に株式会社C Kサンエツに商号変更し、住所を富山県高岡市守護町二丁目12番1号に変更しました。
4. サンエツ金属取引先持株会は、平成23年10月3日にC Kサンエツ取引先持株会に名称変更し、住所を富山県高岡市守護町二丁目12番1号に変更しました。
5. サンエツ金属従業員持株会は、平成23年10月3日にC Kサンエツ従業員持株会に名称変更し、住所を富山県高岡市守護町二丁目12番1号に変更しました。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成23年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 528,800	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 1,650,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,687,100	66,871	-
単元未満株式	普通株式 1,100	-	-
発行済株式総数	8,867,000	-	-
総株主の議決権	-	66,871	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が2,000株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数20個が含まれております。

【自己株式等】

平成23年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) サンエツ金属株式会社	富山県高岡市吉久一丁目4番1号	528,800	-	528,800	5.96
(相互保有株式) シーケー金属株式会社	富山県高岡市守護町二丁目12番1号	1,650,000	-	1,650,000	18.60
計	-	2,178,800	-	2,178,800	24.57

(注) サンエツ金属株式会社は、平成23年10月3日に株式会社 C K サンエツに商号変更し、住所を富山県高岡市守護町二丁目12番1号に変更しました。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	197	239
受取手形及び売掛金	14,080	15,707
商品及び製品	2,844	4,250
仕掛品	2,836	3,250
原材料及び貯蔵品	2,555	2,663
前払費用	65	55
繰延税金資産	303	369
その他	191	842
貸倒引当金	28	31
流動資産合計	23,047	27,347
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,384	6,085
減価償却累計額	1,822	3,080
建物及び構築物(純額)	1,561	3,004
機械装置及び運搬具	11,312	15,423
減価償却累計額	10,257	13,862
機械装置及び運搬具(純額)	1,054	1,560
土地	2,987	3,994
建設仮勘定	357	74
その他	605	1,635
減価償却累計額	550	1,525
その他(純額)	54	109
有形固定資産合計	6,016	8,744
無形固定資産		
その他	53	54
無形固定資産合計	53	54
投資その他の資産		
投資有価証券	749	669
長期前払費用	26	18
その他	98	158
貸倒引当金	88	115
投資その他の資産合計	786	730
固定資産合計	6,855	9,529
資産合計	29,903	36,877

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成23年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,640	3,738
短期借入金	10,100	13,520
1年内返済予定の長期借入金	-	70
未払金	76	191
未払費用	387	461
未払法人税等	1,140	965
賞与引当金	408	506
設備関係支払手形	214	188
その他	48	189
流動負債合計	16,016	19,831
固定負債		
長期借入金	-	17
繰延税金負債	118	397
再評価に係る繰延税金負債	373	373
引当金	344	533
固定負債合計	835	1,320
負債合計	16,852	21,152
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,387	2,756
資本剰余金	2,303	2,632
利益剰余金	7,827	9,772
自己株式	88	878
株主資本合計	12,429	14,282
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	120	10
土地再評価差額金	473	473
為替換算調整勘定	28	30
その他の包括利益累計額合計	621	513
少数株主持分	-	929
純資産合計	13,050	15,725
負債純資産合計	29,903	36,877

(2) 【 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【 四半期連結損益計算書】

【 第 2 四半期連結累計期間】

(単位 : 百万円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成22年 9 月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
売上高	23,486	30,239
売上原価	20,811	27,436
売上総利益	2,674	2,802
販売費及び一般管理費		
荷造及び発送費	372	461
給料及び手当	186	361
その他	315	520
販売費及び一般管理費合計	874	1,343
営業利益	1,800	1,459
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	14	19
デリバティブ評価益	121	685
その他	25	114
営業外収益合計	160	819
営業外費用		
支払利息	34	40
為替差損	9	3
その他	14	31
営業外費用合計	59	75
経常利益	1,902	2,203
特別利益		
固定資産売却益	0	0
負ののれん発生益	-	576
段階取得に係る差益	-	64
補助金収入	9	9
その他	-	4
特別利益合計	9	654
特別損失		
固定資産除却損	1	12
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	0	-
特別損失合計	2	12
税金等調整前四半期純利益	1,910	2,845
法人税等	788	882
少数株主損益調整前四半期純利益	1,121	1,962
少数株主損失 ()	-	16
四半期純利益	1,121	1,979

【四半期連結包括利益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,121	1,962
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22	109
為替換算調整勘定	6	1
その他の包括利益合計	15	108
四半期包括利益	1,137	1,854
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,137	1,871
少数株主に係る四半期包括利益	-	16

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,910	2,845
減価償却費	354	485
有形固定資産除却損	1	12
有形固定資産売却損益(は益)	0	0
負ののれん発生益	-	576
段階取得に係る差損益(は益)	-	64
貸倒引当金の増減額(は減少)	4	20
賞与引当金の増減額(は減少)	51	43
退職給付引当金の増減額(は減少)	21	28
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	0	29
受取利息及び受取配当金	14	19
支払利息	34	40
売上債権の増減額(は増加)	1,751	350
たな卸資産の増減額(は増加)	1,152	484
その他の流動資産の増減額(は増加)	194	9
仕入債務の増減額(は減少)	691	499
未払消費税等の増減額(は減少)	19	115
デリバティブ評価損益(は益)	121	685
その他の流動負債の増減額(は減少)	7	19
その他	3	40
小計	229	853
利息及び配当金の受取額	14	19
利息の支払額	33	40
法人税等の支払額	695	1,115
営業活動によるキャッシュ・フロー	943	282
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	235	683
有形固定資産の売却による収入	0	0
投資有価証券の取得による支出	0	41
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	784
投資活動によるキャッシュ・フロー	236	1,509
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	1,440	1,220
長期借入金の返済による支出	-	69
株式の発行による収入	-	737
自己株式の取得による支出	21	21
配当金の支払額	35	34
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,382	1,832
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	1
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	198	42
現金及び現金同等物の期首残高	177	197
現金及び現金同等物の四半期末残高	375	239

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
(連結の範囲の重要な変更) 第 1 四半期連結会計期間より、シーケー金属株式会社の株式取得に伴い、同社を連結の範囲に含めております。

【追加情報】

当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第 1 四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月 4 日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月 4 日)を適用しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第 2 四半期連結累計期間 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成23年 9 月30日)
1. 税金費用の計算	税金費用については、当第 2 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
現金及び預金勘定	375百万円	239百万円
現金及び現金同等物	375	239

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年9月30日)

配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年6月21日 定時株主総会	普通株式	34	4.5	平成22年3月31日	平成22年6月22日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成22年11月10日 取締役会	普通株式	30	4.0	平成22年9月30日	平成22年12月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平23年6月20日 定時株主総会	普通株式	46	6.0	平成23年3月31日	平成23年6月21日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月10日 取締役会	普通株式	41	5.0	平成23年9月30日	平成23年12月2日	利益剰余金

2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成23年5月26日付で、釣谷宏行、伊勢晴之、渡信行、川崎駿一、他12名から第三者割当増資の払込みを受けました。この結果、第1四半期連結会計期間において資本金が369百万円、資本準備金が368百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において資本金が2,756百万円、資本準備金が2,671百万円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	黄銅棒・線	精密部品	合計
売上高			
外部顧客への売上高	21,814	1,671	23,486
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,450	780	2,231
計	23,265	2,452	25,718
セグメント利益	1,743	47	1,791

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,791
セグメント間取引消去	9
四半期連結損益計算書の営業利益	1,800

当第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	伸銅	精密部品	配管・鍍金	合計
売上高				
外部顧客への売上高	26,106	1,992	2,140	30,239
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,163	1,171	0	3,336
計	28,269	3,164	2,141	33,575
セグメント利益又は損失()	1,449	102	86	1,465

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	1,465
セグメント間取引消去	6
四半期連結損益計算書の営業利益	1,459

3. 報告セグメントごとの資産に関する情報

前連結会計年度の末日に比して、当第2四半期連結累計期間の報告セグメントごとの資産の金額が著しく変動しております。これは平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、同社の資産を報告セグメント「配管・鍍金」に計上したことによるものです。
前連結会計年度末に比べて増加したセグメント資産の金額は「配管・鍍金」が5,593百万円であります。

4. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結累計期間においては、平成23年4月1日付でシーケー金属株式会社を連結子会社化したことに伴い、報告セグメントは従来の2事業から「配管・鍍金」を加え3事業となりました。また、従来の「黄銅棒・線」については、「伸銅」にセグメント名称を変更しました。なお、当該変更は名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	144円97銭	271円74銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,121	1,979
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,121	1,979
普通株式の期中平均株式数(株)	7,739,411	7,284,336

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

	当第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
(「株式給付信託(従業員持株会処分型)」の導入)	
<p>当社は平成23年11月10日開催の取締役会において、従業員の福利厚生増進及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「株式給付信託(従業員持株会処分型)」(以下、「本信託」といいます。)の導入を決議いたしました。</p>	
1. 本信託の概要	
信託の目的	持株会に対する当社の株式の安定的な供給および信託財産の管理により得た収益の受益者への給付
委託者	当社
受託者	みずほ信託銀行株式会社
	みずほ信託銀行株式会社は平成23年12月26日(予定)に資産管理サービス信託銀行株式会社と包括信託契約を締結し、資産管理サービス信託銀行株式会社は再信託受託者となります。
受益者	受益者適格要件を充足するC Kサンエツ従業員持株会会員
信託契約日	平成23年12月26日(予定)
信託の期間	平成23年12月26日～平成28年3月25日(予定)
2. 本信託による当社の株式の取得の内容	
取得する株式	当社の普通株式
取得価額の総額	550百万円(予定)
株式取得期間	平成23年12月27日～平成25年6月28日(予定)
株式取得方法	取引所市場等より取得(立会外取引を中心に取得する予定です。)

2【その他】

平成23年11月10日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額.....41百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....5円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成23年12月2日

(注) 平成23年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年11月10日

株式会社C Kサンエツ
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 西川 正房 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安田 康宏 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社C Kサンエツ（旧会社名 サンエツ金属株式会社）の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成23年7月1日から平成23年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社C Kサンエツ（旧会社名 サンエツ金属株式会社）及び連結子会社の平成23年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはX B R Lデータ自体は含まれていません。